

令和7年9月19日

白老町議会

議長 小 西 秀 延 様

産業厚生常任委員会

委員長 森 哲 也

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 常任委員会
 安全で快適な道路環境づくりの取組について
 (2) 分科会
 白老建設協会との懇談
- 2 調査の方法 (1) 常任委員会 事務調査・現地調査
 (2) 分科会 懇談
- 3 調査日程 (1) 常任委員会
 令和7年8月26日(火)
 (2) 分科会
 令和7年7月23日(水)
- 4 出席委員
 委員長 森 哲 也 副委員長 飛 島 宣 親
 委員 水 口 光 盛 委 員 田 上 治 彦
 委員 氏 家 裕 治 委 員 西 田 祐 子
 委員 前 田 弘 幹 議 長 小 西 秀 延

5 説明のために出席した者の職・氏名

都市整備部長	舩田紀和	建設課長	瀬賀重史
建設課主幹	谷野哲也		

6 分科会懇談のため出席した者の職・氏名

白老建設協会

会 長	清水尚昭様
副 会 長	伊勢谷明彦様
常 任 理 事	鈴木孝義様
常 任 理 事	鈴木武幸様
常 任 理 事	田中吉雄様

7 職務のために出席した者の職・氏名

主 幹	小山内 恵	書 記	鈴木領祐
-----	-------	-----	------

8 調査結果

(1) 常任委員会

【調査内容について】

白老町町道舗装補修計画・白老町町道簡易舗装計画・白老町橋梁長寿命化修繕計画について事務調査及び現地調査を実施した。

① 道路環境の現状と取組について

町道は歩道と車道を合わせ991路線の約557キロメートルが認定されており、生活や産業の様々な基盤を支える上で重要な役割を果たしている。

町内の道路をはじめとするインフラ施設は、昭和40年から50年頃にかけて、急速に整備が進められてきた。整備後から50年近く経過したインフラ施設は老朽化が著しく、今後も維持管理費用の増加が見込まれ、より一層計画的な整備が求められている。

こうした中、「白老町町道舗装補修計画」、「白老町町道簡易舗装計画」に基づき整備が実施されているが、老朽化や破損の著しい路線は増加している。パッチ補修を繰り返している道路や起伏の激しい道路のオーバーレイ補修、砂利道の舗装化など地域からの要望が年々増加傾向となっている。

また、課題として労務物価上昇などに伴い事業費が増加している現状にあり、事業の進捗に影響を及ぼしている。

② 除雪体制の現状と取組について

令和6年度の除雪体制は、町内外26者より借上げた53台の車両と融雪剤散布車3台に、町所有の3台を含め合計59台の車両で除雪作業が実施

された。

除雪出動の状況は、車道 440.4 キロメートルに対し 304.5 キロメートル実施、除雪率は 69.1%。歩道 117.6 キロメートルに対し 49.9 キロメートル実施、除雪率は 42.4%となっている。

また、交通量の多い踏切のほか交差点付近の登坂路となる町内の 9 か所にロードヒーティングを整備し、スリップ事故に対する交通安全対策が実施されている。

③ 橋梁の現状と取組について

町内の橋梁は134橋あり、建設後50年を経過する橋梁は、今後20年で全体の約64%、30年後には約85%に達する見込みである。

従来の維持管理方法となっていた「壊れてから修繕」を進めた場合には、大規模修繕や橋梁の架替時期が集中し膨大な費用が想定されていた。

そのため、老朽化した橋梁の維持・修繕コストの縮減対策として従来の「事後保全管理型」から損傷が大きくなる前に予防措置を行う「予防保全管理型」へ転換し延命化を図り、財政負担の逓減と修繕コストの平準化を目的に「白老町橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な橋梁点検と適切な維持管理が実施されている。

また、現在修繕中である白老橋は令和2年度に北海道開発局で初となる「道路メンテナンス技術集団」による直轄診断が実施され、健全性や今後の維持管理について、早期に措置を講じるべきとの助言を受けたことから、修繕代行事業への要望を行い採択され、北海道開発局による令和3年度からの事業化以降、現在も継続して修繕工事が実施されており、令和8年3月頃に全面開通予定となっている。

【委員会意見】

第1に、第6次白老町総合計画に掲げている町民満足度、成果指標の目標値を達成すべきである。

満足度の向上には成果指標である町道舗装補修済延長が重要となる。目標値は令和元年度1万353メートルに対して令和9年度までに1万5,178メートルの延長が必要となっている。目標達成には労務費や資材が高騰しており財源確保が課題であるが、対応策として、不用額を財源とするなどスピード感を持って事業を推進していくべきである。

また、整備が計画されている道路については、地域住民や事業所に対し計画内容や事業の進捗状況、計画予算などを周知することが満足度の向上を図る上では必要である。

第2に、景観維持や環境整備をより推進していくべきである。

遊歩道や公園等の町有地は住宅に隣接している場所が多数あり、生活に支障を来す木の伐採や草刈りを実施し環境整備に努めている。町内会等と

の情報共有を図りながら、よりよい環境を保っていくことが重要である。

最後に、町道は日常生活だけでなく、物資の輸送や移動を支え事業運営の基盤となっている。また、災害時の避難や緊急車両の通行の確保など、多岐にわたる重要な役割を担っている。

地域の安全で快適な道路環境づくりは住環境の質を高め、コミュニティの活性化にも貢献するなど、地域の持続的な発展と生活の質の向上に不可欠であり、計画達成の予算を確保し、道路環境を向上させることが、町民の満足度が上がり、住み続けられるまちづくりの観点からも重要であると考えらる。

（２）分科会

産業厚生分科会は、白老建設協会との懇談を実施した。その内容については、別紙活動報告書のとおりである。

産業厚生分科会の活動報告書

令和7年8月20日

産業厚生常任委員会

委員長 森 哲也 様

産業厚生分科会

主査 飛島 宣親

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 白老建設協会（参加者7名）

日程・会場	令和7年7月23日(水) 午前10時～午前11時20分 議会第1委員会室
懇談テーマ	1. 建設業の現況と課題について 2. 議会や行政への意見・要望等について
出席委員名	主査 飛島 宣親 副主査 森 哲也 委員 水口 光盛 委員 田上 治彦 委員 西田 祐子 委員 前田 弘幹
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	1. 建設業の現況と課題 ・白老町の道路、橋梁、上下水道、公共施設など多くのインフラ整備・維持管理を担っている。災害時には迅速な復旧活動も行い、地域の安全・安心に貢献している。 ・会員企業や従業員の高齢化が進行し、若手人材の確保が難しい状況。技能者の減少で工事の受注や施工力の維持が課題となっている。 ・工事の発注量が安定しない年もあり、経営基盤が不安定になりがちである。 ・資材価格や人件費の高騰が経営を圧迫している。 ・清掃活動や地域行事への協力など、地域との連携も積極的に行っている。

- ・若年層の建設業離れや、後継者問題が深刻化している。
- ・建設業としての魅力発信や働き方改革、労働環境の改善が求められている。

2. 議会や行政への意見・要望等

- ・公共工事の発注量を一定程度確保し年度間で平準化することで、安定的な経営と雇用維持を図ってほしい。
- ・町民が安心して新築やリフォーム、解体に取り組めるよう、補助金制度の拡充や支給額の増額、申請手続きの簡素化をお願いしたい。
- ・若手担い手の育成と人材確保支援、若手技術者や現場従事者の確保、育成のため地元中高生へのPR活動やインターンシップ支援、資格取得支援などを行政として積極的に推進してほしい。
- ・災害時に迅速な対応ができるよう、建設業者と行政との連携強化、防災訓練の定期実施、必要な資機材の確保・整備を求める。
- ・建設業界の現状や課題を共有するため、行政との定期的な意見交換会や協議の場を設置し、現場の声を政策に反映してほしい。
- ・毎年町議会に要望書を提出している。早期改善及び実現をお願いしたい。
- ・時間外労働削減、専任技術者配置の観点から、公共工事は施工時期の柔軟な選択が可能となるフレックス工事にしてほしい。繁忙期や閑散期に合わせて施工時期を調整できることで、工事の効率化や品質向上にもつながる。

3. まとめ

地域建設業の現状や課題、そして行政との連携の重要性について改めて認識を深めることができた。

特に、建設協会から寄せられた現場の声や要望は、地域社会のインフラ整備や災害対応、持続可能な地域経済の発展に不可欠なものばかりである。

こうした意見や要望の実現に向けては、行政と建設協会のさらなる連携強化が不可欠であり、定期的な意見交換や情報共有の場を設けることが重要だと考える。また、現場で生じている課題に対し、行政が迅速かつ柔軟に対応できる体制の構築が必要である。